

# 光照院たより

発行：(宗) 光照院  
 発行日：令和5年10月10日  
 台東区清川1-8-11  
 TEL. 03-3872-8487  
 FAX. 03-3875-5485



## 光照院の寄り添い地藏尊

現在、光照院の玄関に安置している「寄り添い地藏尊」は、この世を離れても、共に極楽浄土に生まれ変わり、永遠に寄り添い合う菩薩(往生人)のお姿を連想させてくれます。愛する人との別れは悲しく、堪えがたい苦しみです。「俱会一处」が約束されたお念佛は、愛する人と永遠に一緒にいたいという、切なる願いをかなえてくれる大切な祈りの声なのです。

くえいっしょ  
 俱会一处——永遠に寄り添う——  
 とわよそ

まもなく、法然上人が浄土宗をお開きになって八五〇年目の節目を迎えます。とはいえ、法然上人ご自身は教団を組織することを意図したのではなく、いかなる人も等しく極楽浄土に救っていただけの道を示したおつもりであったに違いありません。そして、その救いの道が記された「浄土三部経」と呼ばれるお経を大切にせよと仰せになっておられます。

さて、標題に掲げた「俱会一处」とは、その「浄土三部経」のうちの一つである『阿弥陀経』の一節です。お経の中でお釈迦様は「極楽浄土の様子を耳にした人たちは、かの阿弥陀如来様の極楽浄土に生まれたいと願うべきでありましょう。なぜならば、それほどにすぐれた善き人たちと、ともに同じ場所

で会い集うことになるのですから」と仰せになつていきます。この棒線部分が「俱会一処」です。

「俱」とは「ともにうちそろう」という意味であり、「一処」とは極楽浄土のことです。そしてそこで出会う「善き人たち」とは、阿弥陀如来様の救いを信じ、共にお念佛の道を歩んだ人たちを指します。すなわち、苦しみ多きこの世を共に生き、一緒にお念佛をお称えしてきた親や兄弟、伴侶、友人などのことです。共にお念佛を称えてきた大切な人たちは、いのちの終わりに遅速の差はあれども、みんなこの世を去る時には極楽へ生まれ変わります。そして、お互いにとつてかけがえのない「善き人たち」と再会させていただけるのです。

「蘇州夜曲」や「青い山脈」等の作詞で知られ

る詩人の西條八十氏は、最愛の妻に先立たれた後、その墓碑の妻の名前の隣に自分の名前を刻み、次のような詩を記したといひます。

われらたのしく  
ここにねむる  
離ればなれに生れ  
めぐりあひ  
短き時を  
愛に生きしふたり  
悲しく別れたれど  
ここにまた心となりて  
とこしへに  
寄りそひねむる

この詩からは、亡き妻を想う八十氏の深い愛情が伝わってくる。死してもなお永遠に寄り添い続けたいとの願いが感じられます。同様に、愛する人との別離に悲しみの涙を流すのは、無常の世を生きる人の定めであるといえ、あまりにもつらいことです。だからこそ、そんな私たちの悲しみ

や痛みを深く知る阿弥陀如来様は、大切な人と死後に再会させていただけの極楽浄土の救いをご用意くださり、法然上人は、その救いが「南無阿弥陀佛」と如来様の名を呼ぶのみでよいとの道筋をお示しくくださったのです。

「俱会一処」とは、愛する人とずっと一緒に居られるようにしようという如来様のお約束の言葉であり、お念佛の声は、如来様と亡き大切な人が私を訪ね見守り、いつか極楽へ導いてくれる力強いご縁の手綱なのです。

俱会一処  
妻に指切り  
しておこう

光照院では、まもなくお十夜法要が催されます。秋の善き日に、大切な人と「ずっと一緒にいよう」と約束し、共にお念佛を申す時間をお過

ごしいただければ幸甚です。 合掌

光照院行事予定

《月例行事》

・第三の土曜日

光照念佛会

・第一と第三の月曜日

ひとさじの会

《年中行事等》

二〇二三年

・十一月十二日(日)

十夜会法要

二〇二四年

・一月一日(月)

正月修正会

・一月十八日(木)

初観音

・三月十七〜二十三日

春のお彼岸

・三月十日(日)

東京大空襲慰霊法要

・四月八日(月)

花まつり(降誕会)

・六月九日(日)

施餓鬼会法要

・七月十二〜十五日

お盆(新暦)

・八月十二〜十六日

お盆(旧暦)

・九月十九〜二十五日

秋のお彼岸

・十一月十日(日)

十夜会法要(来年)

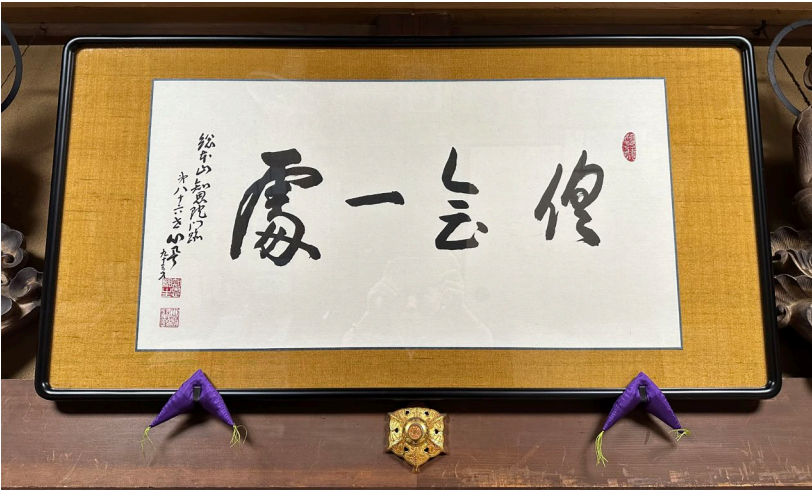
※こちらは予定であり、何らかの理由で変更することもあります。

お十夜会のご案内

拙寺では、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス等の感染対策のため、ご来寺のみなさまに手指消毒やマスクの着用をお願いさせていただきます。引き続き徹底した上でお十夜法要を実施いたします。

なお、お塔婆のご回向





**総本山知恩院中村康隆猯下筆「倶会一处」**

本堂手前の部屋にお飾りした知恩院猯下のご染筆です。102歳でご遷化された中村猯下には、きっとお会いしたい人たちが大勢いらしたことでしょう。

も行いますので、大事をとってご欠席なさる場合にも、お寺にてご先祖様やご縁の方のご供養を行いますので、ご安心くださいませ。

まずは、皆様が心身ともに安寧にお過ごしになれますようにお祈り申し上げます。 住職 拝

《日程》

十一月十二日(日)  
 十三時 法話  
 十四時 法要  
 十五時 終了

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の

方の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

※当日の昼食のご用意は「ございません」。

てゐるねんぶつかい  
**光照念佛会のご案内**

光照院では、毎月お念佛とお写経を行う会を行っております。開催日は、基本的には毎月第三土曜日の十五時から二時間を予定しています。みなさまのお越しをお待ちしております。

〈念佛会の流れ〉

十五時 茶話会  
 十五時半 法話  
 十六時 写経  
 十六時半 念佛回向  
 十七時半 終了



新たなNPOのお墓

今年十月十一日、ホームレス状態の人達や生活困窮者が、生活再建や社会復帰するための仕事づくりを行う社会的企業であり、NPO法人としての側面も持つ「ビッグイシュー・日本」東京事務所のお墓が光照院に建立されました。墓地建立は、当該団体の二十周年の記念事業であるというだけでなく、駅前等で『ビッグイシュー』を売る販売員さんたちを人生の最期まで支えたいという団体の願いが感じられました。

ハワイへの寄付

今年八月八日にハワイ州マウイ島ラハイナ地区で発生した山火事は、ハリケーンの風によって大きくなり、あっという間に広大な街を飲み込んでしまいました。

それから二か月が経過しましたが、大規模火災による空気や水の汚染、住居を失った大勢の人の生活の場の確保など、大きな課題が山積していて混乱はいまも続いています。被災した方々の生活再建までの道のりは険しく、喪われた大切な人を想い、悲しむ祈りの時を過ごすこともままならない状況がうかがわれます。

一方、光照院は、諸活動を継続してゆけるように、拙寺の修繕や活動に使用してほしいと、篤信の方から大きなご寄進を賜っていただきました。そこで、檀家総代や世話人の皆様と相談し、その寄進から二千万円の災害支援金を用意し、ハワイの被災地域にある寺院に送り、現地の人々の生活再建と祈りの場の再興にあてていただきました。



### 種月明「六地藏」

阿弥陀様の化身ともいわれるお地藏様は、あらゆる苦者のもとへ駆けつけてくださいます。誠に見習いたいお姿です。

く過ぎ去ったと思えば、今度は朝晩、急に冷えてまいりました。そのせいか、十月に入った途端、悲しい連絡が次々に入ってきて来て……。老衰だから、突然死じゃないからといって、悲しくないことなどありません。どんな別れであれ、愛する者を喪うことは、つらいものです。そんな悲しみをご存じで、慈しみの心から極楽での再会をお約束してくださる阿弥陀様の存在のありがたさが身に沁みます。「俱会一処」のお約束、皆様もどうか覚えておいてくださいませ。(住)

復興を遂げるには、これから何年もの時間が必要となることでしよう。被災された方々が、早期に日常生活を取り戻し、喪われた大切な人を想う場所を得ていただけることを願います。檀信徒の皆様にも、一緒に復興の支縁にご協力を賜れば幸甚です。(住)

### 貧困・子供支縁御礼

日頃より、光照院や住職の行う生活困窮者や子どもへの支援活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。檀信徒様より頂戴したお供物やご支援の品は、困窮家庭や外国籍の方々を活用させていただいています。ちなみに、今年四ヶ月までの半年間で配布した食品は、お米のみで二トンを超えています。それだけ困窮している人が多いことに胸が痛む一方、みなさまからの

ご助力の大きさに驚かされます。この場をお借りして感謝を申し上げます。今後も光照院では支援活動を続けてまいります。お近くでお困りの方がいらつしやる時には遠慮なくご相談くださいませ。合掌

### ひとさじの会活動

みなさまのご協力のおかげさまで、コロナ禍にも活動が継続できています。しかし、感染拡大防止の観点から、ボランティアの募集は一旦休止のままです。また、ボランティア再開の折には、改めてご案内をさせていただきます。今後もしよろしくお願い申し上げます。合掌

### 光照院へのアクセス

台東区循環バス「北めぐりん」「浅草駅」から乗車し、光照院そばの九番「清川一丁目」停留所

### 編集後記

で降車ください。また、「甲42南千住車庫ゆき」バスご利用の場合は、「浅草松屋前」停留所から乗車し、「東浅草」停留所で降車ください。

厳しい暑さがようやく